



東かがわ市立大内大川小中学校

隣り合った校舎で小学生と中学生が共に生活し、交流しています。

本校は、平成25年度から隣り合った校舎に小学生と中学生が生活しており、令和4年度から小中一貫校となりました。校舎は小中で別ですが、図書館は共用で、小中学生が一緒に利用しています。小中学校の教員は、互いの学校で授業を行ったり、共に研修する機会をもったりしています。

子どもたちは、春の音楽部コンサートに中学生が小学生を招待、互いの行事（中：合唱コンクール、小：学習発表会）の様子をビデオ視聴してメッセージ交換、英語で小学生と中学生が交流するSky de Englishなどの小中交流を継続して行っています。交流行事は、昼休みに希望者が参加という形で行っていますが、どの行事もたくさんの児童・生徒が参加しています。また、交流行事等以外でも、サッカー場で小学生が中学生のお兄さんたちに鬼ごっこをしてもらう姿なども見られています。



11月には、小学生と中学生のふれあいの場を作るため、生徒会が「バブルプロジェクト」を企画しました。

7～9年生が昼休みに中学校校舎の中庭に小学生を招待し、洗濯のりを混ぜた液で、割れにくくて、大小さまざまなシャボン玉を作るコーナー、空気砲で紙コップを吹き飛ばすコーナー、ダイラタンシー現象（じっとしていると沈む、動いていると沈まない現象。片栗粉と水を混ぜたものに手を入れてみたり、その上に立ったりしました）体験コーナーがあり、小学生は大喜びで、各コーナーで中学生と交流しました。

このような場の設定により、子どもも教職員もみんなで楽しい時間を過ごしています。加えて、企画した側は準備して参加してくれた子の様子から満足感を得られること、参加者は、年上のお兄さんお姉さんと活動を通じた交流ができ、顔見知りになったり言葉を交わしたりする経験ができること、上級生に憧れの気持ちを抱くことなどが少しずつ広がっています。



防災教室



なかま集会



なかよしアンケート



着衣泳

令和5・6年度は、三豊市立仁尾小学校が青少年赤十字研究推進校として指定されました。同校では、研究主題を「課題をもって、考えて、感動しよう!～主体的に人・課題とかわることで、感性を磨く授業づくり～」と設定し、多くの活動に取り組んでいました。

11月13日に行われた発表会では子どもたちが自主的に発表し、一生懸命活動に取り組む姿が報告されました。





4年図画工作「どろどろカッチン」

液体粘土を用いて固まった布の形から想像を膨らませ（気づき）、自分の作りたいものの見通しを立てる（考え）。友だちと意見交流し、自分では気付かなかった作品の見方やより良い表現を見つける（実行する）。

友だちの
アイデアはすごい！



この形を
こうすると…



友達の意見を
ヒントにして
帽子ができた！



5年図画工作「形に命をふきこんで」

材料の形や色・特徴、写真の撮り方、物の動かし方、背景の工夫を行い（気づき）、コマ撮りアニメーションに落とし込むストーリーを考える（考え）。ペア班同士でアドバイスを行い、よりよいアニメーション作成につなげる（実行する）。



皆で
確認しよう！



感謝状が贈られました

研究推進校としての活動に対して、賛助奉仕団の横山顧問が心を込めて丁寧に毛筆で書き上げた感謝状が、令和6年11月13日に浅野事務局長から村上校長に贈呈されました。

